

## 令和5年度 第8回豊南地域会議 会議録

■日 時 令和5年12月21日(木) 午後6時30分～7時15分

■会 場 豊南交流館 1階 大会議室

■出席者 <委員> 天野 昭一郎 伊藤 信行 大富 晃 岡田 剛  
川上 正弘 貴堂 悦弘 小玉 知子 小林 俊一  
柴田 省吾 鈴木 久雄 辻川 厚良 柘植 紀宏  
中島 浩 福土 範行 山下 安則 良知 晶子  
※欠席者 内田 昌利 小戸 昌則

<豊田市> 鈴木 学 (豊田市副市長)  
野依 真人 (企画政策部 企画課 課長)  
大光 圭二 (企画政策部 都市計画課 副課長)  
後藤 哲也 (地域振興部 部長)  
<事務局> 岡本 裕之 (地域支援課 課長)  
松下 誠 (地域支援課 副課長)  
塚田 征弘 (地域支援課 担当長)  
杉浦 由里江 (地域支援課 主事)

### ■次 第

開 会

- 1 豊田市民の誓い唱和
- 2 会長あいさつ
- 3 鈴木副市長あいさつ
- 4 答申書授受
- 5 答申内容説明
- 6 副市長との意見交換会
- 7 事務連絡

閉 会

### ■議 事 (要約)

- ・ 答申内容説明  
岡田副会長から答申内容の説明を行った。
- ・ 副市長との意見交換会  
別紙のとおり
- ・ 事務連絡  
(1) 足助・稲武山村ツアーについて情報提供した。  
(2) 令和6年度わくわく事業について情報提供した。

## 第8回豊南地域会議 副市長との意見交換会 議事録

委員：豊田市は財政的に豊かであり、恵まれた市だと思う。

ずっと住んでいる自分から見ると立派な施設があり、イベントも盛んである。ただ、市民に対して直接的な援助がされていないのではないかと思う。自動車産業が好調で、豊田市の景気が良いうちに、実際に住んでいる人たちへ向けた援助を行ってはどうか。例えば、東京都の高校の授業料無償化である。東京と隣接している県に住む世帯は、東京に住めば授業料が無料になると思い、移住するきっかけになる。授業料に限らず、豊田市に住めばこんなメリットがあるともなれば、みよしや岡崎など、近隣の市から引っ越してくるのではないか。財政が厳しい状態であるなら、単に絵にかいた餅になってしまうが、今の豊田市はそうではないと思う。インフラだけでなく、市民の生活を助けるために施策を行っていただきたいと思う。こういった取組をすれば移住者が増えるサイクルができると思う。ハード面だけでなく、ソフト面でも取組を行っていただきたい。

副市長：東京都は大手企業の本社が集まっており、さらに小さい面積の中で多くの人住んでいる。インフラコストがかからない、イレギュラーな都市である。自分は東京都出身で、就職してから全国の都道府県を回っているが、豊田市はほかの都市よりも先駆けている施策が多いと思う。ただ、良い施策をPRするのが不足していると感じる。豊田市に住むとこんなに良いことがある、「豊田市に住もう」と思っていただけの市にすることが大切である。豊田市は県内で一番広い市であり、それが理由で様々なコストがかかるが、他の地域よりも先駆的な施策をやっているということを知ってほしい。

委員：自分はお酒が好きでよく飲む。時代の流れなのか、トヨタ自動車本社がある丸山地域の飲み屋街がなくなった。前山地域も水源町地域も飲み屋がなくなってきた。豊田市の本家本元の地域であるはずなのになかなか目を向けてもらえない。都会の中の過疎になりつつある現状を踏まえて、子どもや若者に対する施策に目を向けてほしいと思う。

副市長：飲み屋街がなくなるのは自分も寂しいと感じる。しかし、現代の若者は酒を飲まない人も多い。今回の計画を作るにあたって、大学生等にも意見をもらいながら、丁寧に検討している。

委員：住みたいまちナンバーワンに長久手市がよくあがるが、豊田市は見たことがない。どういった施策をおこなえばナンバーワンになるのか、考えながら市は仕事をしてほしいと思う。

委員：愛知県は他県に比べて出生率が高い。その理由は製造業が多く、雇用が多いから。しかし、豊田市だけで見ると出生率は低いのはなぜか。人口も多いし、転入してくる若者は多いが、25～39歳の家族編成期になると外にでてい

ってしまう。子育て期の皆さんにとって、豊田市は土地が高いので住宅地としては選ばない。子育てがしやすい街を目指すのなら、公営で空いている住宅を安く提供したらどうか。他にも、学童保育について、現在は4年生までが対象だがその年齢をもっと上げたら良いと思う。「地域の人で子どもを育ててもらう」、この発想で時間の空いている高齢者と子どもが触れ合えば良いのではないか？子どもの世話をするという緊張感も高齢者にとって良い刺激になると思う。今後は、外国人が1割、高齢者が4割、あとは子どもや働ける世代になる。なんとか乗り切っていくとイケない。生産人口が減り、高齢者が増えていくのは防げないため、その増えていく高齢者を認知症にさせないために、地域で子どもを育てる仕組みを考えていただけると良いと思う。

副市長：データをよく分析していただいている。自分たちの把握しているデータとほぼ相違ない。10年前、20年前と比べると子育てする環境が大きく変わっている。昔はこうだったというのが今は通じない。自治区の役をやっている年齢がどんどん上がっていくから大変だという声をよく聞く。外国人の子どもも増えていく中で多文化共生のための施策にも取り組んでいきたい。他市で高齢者と子育てをマッチングさせる仕組みを成功させているところがあるので参考にしたい。

委員：自分は消防団に入っている。地域活動を行う中で、自治区の役をやられている方は苦労しているという話をよく聞くが、市はどう考えているのか。

副市長：自治区や地域会議は先駆的な取組だと思っている。ただ、時代も変わるので同じルールのまま持続させていくのは難しい。自分個人の考えとしては、役のあり方を見直していくべき時代なのではないかと思う。回覧の仕方、話し合いの仕方、様々なことにおいて一律でこうすべきという考えは必要ないと思う。こうするとより良いのではないかという考えをしてほしい。自分の親戚の話だが、町内会の会長を引き受けた途端にDX推進を任されることになって大変だと言っていた。

委員：20年前からずっと若い夫婦が豊田市から出て行ってしまおうという話を聞いている。そういう現状があるのに20年も変わらないままなのはおかしいと思う。どうして放っておくのか。若い夫婦と子どもたちにもっと目を向けるべきだと思う。

副市長：何もしていないわけではない。転出する世帯もあれば、転入する世帯もある。駅近に住めるなど住んでもらえるための施策を考えたい。

以上